

平成 29 年度

# 事 業 報 告

社会福祉法人めぐみ会

(指定介護老人福祉施設)

特別養護老人ホーム北寿園 介護課

入所生活介護事業

短期入所生活介護事業

## 平成 29 年度 特別養護老人ホーム北寿園 事業報告

### 1 目標

「やさしく」「ゆったり」「よりそって」

### 2 年度指針

1) 安心・安全は施設利用の大前提です。利用者のアメニティ（快適性）を追求しながら、「事故防止・軽減」の視点で「気づきの組織作り」を進めます。利用者の方々が、安心・安全な生活を送れるための生活環境の整備と、職員の知識・技術の向上、さらには労働環境の改善を進めます。

・H29 年度の関係機関への事故報告件数は、骨折 3 件・誤嚥 1 件でした。誤嚥につきましては、自力摂取中に誤嚥し窒息に繋がった事故でした。骨折につきましては、自身の機能低下が理解できずに行動して、転倒し骨折に繋がったと思われます。環境の整備、利用者様の特性を理解し、行動を予測できる視点を持つこと、また、重点的に認知症の理解に取り組み、事故防止・軽減を図ってまいります。

2) 認知症による入所者が軽重の差はありますが多数を占めています。認知症の方は何も理解できないわけではなく、様々な苦悩を抱えながら生活しています。認知症を正しく理解（中核症状の背景や心理状態、個別性）することが重要です。認知症専門研修を修了した職員を中心に、職員の知識を深め、利用者個々に合わせたきめ細やかな対応が出来るよう研鑽していきます。

・H29 年度は認知症実践研修へ 2 名の介護職員を派遣することができ、8 名の研修が終了しました。認知症利用者の理解を深め、生活ケアを充実させ、事故や虐待の防止を推し進め、安心・安全な日常の実現を念頭に進めてきました。認知症の理解を深めるため、施設内研修会を開催しました。

3) 高齢化や要介護度の重度化に伴い、医療的ケアを必要とする入所者が増加しています。その一方、特養は医療提供を目的とした施設ではないため、医療提供体制が充分ではありません。特に日常的な痰の吸引や、経管栄養が必要となる要介護者の入所の継続が難しいのが現状です。このような状況を緩和できるよう、医療的ケア推進委員会を中心に、介護職員の知識・技能の研鑽を励行し、体制づくりに努めます。

・H25 年 10 月より、看護職員と介護職員の連携による医療的ケア指針に基づき、介護職員が喀痰吸引を実施しています。現在、喀痰吸引対象者 10 名、喀痰吸引従事者 31 名で、事業を行っています。頻回に痰吸引が必要な対象者はいませんが、予防的対応として、誤嚥予防のために、食前に嚥下体操を励行し、毎月嚥下チェックを行ってきました。

また、施設内での看取りの件数は 8 件あり、終末期の看取りケアの在り方について、医療機関、家族との連携をさらに深めてまいります。

- 4) 健全な食生活は、健康で生き生きとした生活を送る上で大事な要素であります。食生活を豊かにするには口腔機能の維持が不可欠です。口腔機能維持を目標に歯科医師・歯科衛生士の指導の下、利用者個々に合わせた口腔ケアを実施していきます。
- ・ H29 年度は、目標としていた「口腔ケアに関するアセスメントを定期的に確認する・正しい口腔ケア方法の普及、個々の入所者の状態に合わせた口腔ケアを安全に実施する」について取り組みました。重点的に口腔ケアを実施する対象者を抽出し、モニタリング - 再評価することで、適切な口腔ケアを行えるよう取り組みを進めております。誤嚥性肺炎の発生率の低下など、取り組みに成果が見られています。
- 5) 慢性的に介護職員が不足しています。その中で採用された職員に対し、早期戦力化、離職率の減少をはかることを目的に、新人職員の育成教育とこれを支える職員研修を実施していきます。
- ・ H29 年度の採用職員に、受けた研修の希望をとりました。新人職員に対して、焦らせることなく丁寧に育成することが重要と考えています。就業時間内の研修はなかなか実現できないため、施設内外の研修会等へ参加の機会を増やせるよう勤務の調整を行ってまいります。
- 6) 「ケアプラン策定」を中心にケアサービスの点検を進め、利用者や家族の意向に耳を傾け、施設ケアの今後のあり方を模索する指標とします。
- ・ 家族、利用者様に出席を求めケース会議を実施してきました。ケース会議に参加していただく事によって、家族・利用者の生活への思いや入所前の習慣、家族からの思いを実感できるようになり、ケアプランへも反映できています。
- 7) 利用者の権利の保障（人権擁護）、介護サービスの明示（説明と同意）、家族の理解と協力を念頭に、広報に努めます。
- ・ 様々な研修を通じ、「尊厳ある生活を支援する」という法人理念を周知し、「身体拘束の禁止」「虐待の根絶」に努めてまいりました。利用者や家族とのコミュニケーションを深め、利用者の判断能力、身体能力の評価を行い、介護器材等の適切な活用を励行しました。また、職員の言葉遣いやケアへの姿勢のチェックを職員間で行いました。

## 3 事業

介護老人福祉施設 定員 90名 短期入所生活介護 定員 10名

管 理 者 (北見老人ホーム施設長と兼務)	副 管 理 者 (管理課長兼務)	事 務 職 員	介 護 課 長 (相談員・介護支援専門員兼務)	相 談 員 (介護支援専門員兼務)	介護支援専門員(兼務)	機能訓練指導員(兼務)
1	1	1	1	1(1)	(3)	(4)
管理栄養士	介護職員 (1名は介護支援専門員兼務)	看護職員 (機能訓練指導員兼務)	介 助 員	介護等パート	嘱 託 医 (産 業 医)	計 69 名
1	52	4	1	6	(1)	

※介護職員＝介護福祉士；42・ヘルパー1級；1・ヘルパー2級；9

※介護支援専門員は3名配置で兼務

※看護職員＝准看護師；4

## ① 関連する事業点検等

- 利用者満足度調査（聞き取りアンケート） 平成 30 年 3 月  
殆どの利用者様から好評の評価を頂きました。  
食事に対しての要望が他の項目より多く上がっていました。また、利用者様の性格や生活歴、個々の特性を理解した対応が求められていると実感しました。  
結果については、各ケアグループへの情報提供を行い、ケアの質の向上への糧としてもらうよう図りました。
- 介護保険サービス評価（職員向け自己チェック方式・・・北海道基準）  
ユニットリーダーが評価を行い、評価が不十分な部分を課題として、目標に反映できるよう 12 月に実施しました。

## ② 事業実績

別表を参照ください

## 4 職員の資質向上

## 【派遣研修】

- ・「平成 29 年度 介護支援専門員 更新研修」（北見）1 名
- ・「平成 29 年度 看護師専門研修」（札幌）1 名
- ・「雇用管理セミナー」（旭川）1 名
- ・「平成 29 年度 認知症実践研修」（北見）2 名
- ・「応急手当普及員講習」（北見）2 名
- ・「平成 29 年度 網走管内老人福祉施設協議会 ケアマネジメント研修会」

- (美幌)2 名
- ・「平成 29 年度 網走管内老人福祉施設協議会 施設運営研修会」(津別)1 名
- ・「社会福祉法人経営労務管理セミナー」(北見) 1 名
- ・「認定調査員(新規)研修会」(札幌) 1 名
- ・「平成 29 年度 介護保険施設等及び有料老人ホームに対する集団指導」  
(網走)2 名
- ・「平成 29 年度 第 1 回介護保険事業所説明会」(北見) 1 名
- ・「在宅医療・介護連携推進研修会」(北見) 1 名
- ・「平成 29 年度 北見保健所管内看護連携推進会議」(北見) 1 名
- ・「介護報酬改定 経営戦略セミナー」(札幌)1 名
- ・「平成 29 年度 第 2 回介護保険事業所説明会」(北見) 1 名
- ・「平成 29 年度 介護保険サービス等の報酬改定に係る事業者説明会」  
(網走) 1 名

#### 【施設内研修】

- ・「口腔ケア講習会」  
外部講師 ティーアンドケイ (株) 北海道地区担当 高田好美様  
開催日 5/18 出席者 20 名
- ・「健康確保・腰痛予防研修会」  
外部講師 キャンナス札幌 代表 真鍋知美様  
開催日 7/13 出席者 20 名
- ・「事故防止について・ノロウイルス汚物処理方法実践研修会」  
開催日 10/26 出席者 18 名
- ・「心肺蘇生・AEDの使い方」  
開催日 11/29 出席者 24 名
- ・「身体拘束廃止(言葉遣いについて)・認知症の理解」  
開催日 2/9 出席者 21 名
- ・「口腔トレーニング・口腔機能の維持向上する為に」  
開催日 3/7 出席者 29 名

#### 5 広報

- 「陽だまり」の発行(年 3 回 北見老人ホームとの共同発行)
- ホームページの運用(随時更新)
- 見学者の受け入れ(市民、施設、中学校体験学習など)
  - ・一般市民及び入所希望者等(随時)

#### 6 行事

- 誕生祝の実施(毎月)

園遊会の開催（北見老人ホームとの共同行事）による家族との交流

雨天の為施設内開催 参加家族 88 名

仮装盆踊り大会（北見老人ホームとの共同行事）による地域住民や家族との交流

参加家族 34 名

敬老祝いの開催（市長等来賓を迎えて）

（対象者）長寿祝い 5 名 米寿祝い 4 名 喜寿祝い 1 名

運動会（北見老人ホームとの共同行事） 参加家族 37 名

その他－菊まつり観賞・年越し祝い・節分・買物など

## 7 給食サービス

適温給食、健康状態にあった食事の提供が出来ているか、管理栄養士が昼食時にはユニットへ出向き確認するとともに、利用者の意見・感想の聞き取りを行い、献立作成に反映しています。

H18 年 2 月から栄養ケアマネジメントに取り組んでおり、毎月、体重測定を行い、体重変化、摂取量等を確認しながら、栄養ケア計画書の作成・見直しを実施しております。また、管理栄養士・介護職員・看護職員は、ケース会議で情報を共有し、それぞれの意見も計画書へ反映させています。

非常食の 3 日分の整備に取り組んでおり、委託業者と協力し、賞味期限が切れることのないように在庫管理も行うことで、ほぼ 3 日分の食品を備蓄できる状態になりました。

なお、年度途中の 30 年 3 月に委託業者が、LEOC(株)から日清医療食品(株)に変更になりましたが、今後も、一層委託業者と連携を図り、安定した食事提供に努めていきます。

## 8 感染症予防

ノロウイルス感染拡大を予防するために、対応方法の実技研修を実施し、マニュアルの周知徹底を図りました。

感染症予防対策実行委員会を中心に、日常の感染症予防の励行と、感染症が発生しても、早期発見、早期対応できるよう体制づくりをしました。

- ・入所利用前の診断書提出（結核・肝炎・MRSA・梅毒）によるチェック
- ・健康診断の実施（5 月～7 月）
- ・手洗い、うがいの励行
- ・職員が罹患した場合の早期対応
- ・食事前のリビングの滅菌消毒
- ・インフルエンザ予防ワクチンの接種（11 月）－利用者・職員
- ・入浴、食事、排泄介助、寝具、洗濯物等における滅菌や消毒の対策
- ・（疑）罹患者の個室隔離
- ・入館時の手指消毒、マスク着用の励行

・全館の消毒

9 身体拘束の禁止

身体拘束廃止実行委員会を設置し、身体拘束の排除と虐待につながる介護がないか日々の検証をしてきました。

「運営基準」に明記されており、身体拘束は著しく人権を侵害することから、平成 14 年度より禁止しています。こうした考え方を周知すると同様に、虐待防止に視点を置き、職員の言葉使いや、利用者に対する態度（無視することはないか、ナーズコールの対応は適切か etc.）などを中心に取り組みを行ってきました。

10 事故防止対策

「ひやり・はっと報告」 年間件数 149 件(短期利用を含む)

オホーツク総合振興局・北見市への報告件数とその内容

骨折=3 件・・・9 月 2 件 3 月 1 件

誤嚥=1 件・・・1 月 1 件

計 4 件

11 避難訓練の実施

①平成 29 年 7 月 13 日 出火想定場所 2 階

②平成 29 年 8 月 31 日 出火想定場所 3 階

北見消防署員 2 名の立ち会いのもと、避難訓練、消火訓練を行いました。

③平成 29 年 9 月 26 日 自然災害訓練

大雨による河川増水を想定して訓練を実施しました。

④平成 29 年 2 月 20 日 通報訓練

12 環境整備等

全館床清掃（年 2 回） ①5/16・17 ②10/26・27

全館薫蒸消毒（年 1 回） 6/6～6/20

13 ボランティア・実習生の受け入れ

【ボランティア】

ボランティアの方々には、洗濯物の分別・衣類の補修・牛乳パックの解体、喫茶コーナーの運用などの作業内容を協力いただきました。

- ・ 老人クラブ連合会婦人部 毎週月曜日（協力していただける 37 クラブの持ち回り）
- ・ 社協の登録ボランティア（2～3 人）毎週木曜日
- ・ " （喫茶「陽だまり」）毎週水曜日
- ・ オホーツク社会福祉専門学校ボランティア（喫茶「陽だまり」）月 2 回土曜日

### 【実習生】

将来の人材育成のため、受け入れを進めました。

- ・オホーツク社会福祉専門学校

介護福祉課 2 年次生：3 名 5/22～7/22 (33 日)

1 年次生：2 名 10/23～11/17 (17 日)

歯科衛生士科 1 年次生臨床実習 26 名 1/22～1/31 (7 日)

- ・日赤看護大 (38 名 1 人 4 日間) ー5 月・9 月・10 月・11 月・12 月・2 月

- ・職場体験

小泉中学校生 5 名 ー9/12

高栄中学校生 4 名 ー9/21

※延べ日数 320 日 受け入れ人数 78 名

### 14 業務委託

給食調理業務ーLEOC(株)・日清医療食品(株)(3 月から)

日常清掃業務ー(社団)シルバー人材センター

洗濯(衣類等)業務ーワタキューセイモア(株)

寝具リースーワタキューセイモア(株)

### 15 保守管理

北海道電気保安協会

東芝エレベーター(株)

寺岡オートドア(株)

万年通信工業(株)ー消防用設備等の定期点検